

ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の見直しについて

1 趣旨

「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想（以下「構想」という。）」は、ひょうたん島をとりまく1周約6キロメートルの川（新町川・助任川）や周辺の川の各所に船が着き、人が乗り降りできる「川の駅や停留所」を整備し、市内中心部への人々の誘導、また移動手段としての取組を進めることで、人の流れを生み出し、にぎわいにつなげることを目指したものです。

この構想は、平成26年度に策定後、平成28年度に見直しを行っていますが、前回の見直し以降に社会情勢の変化が生じていることや、今後、期待される役割が大きくなっていることから、時代に合った実効性のある構想にすることが求められているため、このたび、構想見直しに着手することとしました。

2 見直しの背景（社会情勢の変化等）

- (1) 中心市街地の活力低下や新型コロナウイルス感染拡大に伴う人々の生活様式の変化など、川の駅ネットワークを取り巻く環境が大きく変化しています。
- (2) 「総合計画2021（R2年度策定）」や「都市計画マスタープラン（R4年度見直し予定）」などの上位計画や、本市の中心市街地の活性化に関する施策を総合的かつ一体的に推進するための「中心市街地活性化基本計画（R3年度策定）」と整合を図る必要があります。
- (3) ベイエリアにおける栈橋整備や実証実験の実施など活動エリアが拡大し、現構想から進展が見られるとともに、新町西地区市街地再開発事業の進展に合わせ、同地区での整備が今後進むことが想定され、川の駅ネットワークの一層の活性化が期待されています。

3 見直しの基本的な考え方

次期構想では、川の駅ネットワークが「にぎわいの創出」をはじめ、まちづくりに資する構想へと発展することが期待されているため、次の点を見直しの基本的な考え方とします。

(1) 新たな時代に相応しい構想

前述の社会情勢の変化等や今後の展望を踏まえつつ、これらの変化を的確に捉え、新たな時代に相応しい構想を目指します。

(2) 整備から活用へ

現在の川の駅ネットワーク構想から川の駅等の整備は一定程度、進んでいることから、次期構想では、活用に力点を置いた構想を目指します。

(3) アミューズメント性

「中心市街地活性化基本計画」では、「ひょうたん島フィールドテーマパーク構想（ひょうたん島を「買い物に行く場所」ではなく、「遊びに行く場所」として捉え直そうとする試み）」を掲げていますが、これに沿って、「わくわくする体験」を提供できるような、アミューズメント性の高い構想を目指します。

(4) 持続可能性

川の駅ネットワークが一過性のものになるのではなく、末永く市民や観光客などに親しまれ、活用され続けるよう、SDGsの視点を踏まえつつ、持続可能性を考慮した構想を目指します。

4 スケジュール（案）（以下は、現時点の案であり、今後変わる場合があります）

- 9月～ 市民会議の委員選任（委員公募）、関係者等へのヒアリングの実施
- 12月 第1回市民会議の開催（構想見直しについて）
- 1月～2月 第2回市民会議の開催（素案（案）について）
- 3月 議会に素案を報告
パブリックコメントの実施
- 4月～5月 第3回市民会議の開催（最終案（案）について）
- 6月 議会に最終案を報告
- 6月～ 構想（見直し）の策定

【参考①】周遊船の乗船者数（利用状況）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総人数	46,785	47,550	46,862	55,687	60,084	54,641	50,533	48,737	18,857	26,398

- ・乗船者数は5万人程度で推移していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を背景に直近2年は減少しています。
- ・「バイエリアルート（両国ーマリンピア沖洲間）の定期運航」や「サマータクシー（徳島県立阿波十郎兵衛屋敷に発着）」など、近年、運航範囲が拡大しています。

【参考②】ヒアリングの実施

■ヒアリングの概要

実施期間	令和4年9月15日～11月10日
聴取内容	・川の駅ネットワーク構想について ・川の駅の活動に協力できること など
対象件数	13件（団体・個人）

■意見の概要

現在抱えている課題として、川の駅の認知度不足や魅力の向上などをあげている意見が多ありました。それに対して、川の駅（周遊船）の魅力のPRや活用方法の提示、利用しやすくなるような環境整備（レンタサイクル等）など多くの提案がありました。

また、既にまちづくりや観光など様々な場面で活用されていることが分かりましたが、今後、さらに多様な分野・主体と連携することで一層の発展が期待できるものと考えられます。

※ご意見の詳細は、以降のページをご参照ください。

ヒアリング結果（抜粋）

川の駅ネットワーク構想について

- ・周遊船は知っていたが構想があるのは知らなかった
- ・周遊船は知っていたが今回説明をうけて構想をはっきり認識した
- ・徳島のまちづくりのインフラとして、ネットワーク構想を超えるものはないと考えている

- ・情報発信が必要
- ・周知方法に課題がある。プロモーション活動をすれば素材がいいので広がると思う
- ・PRに力を、各栈橋の整備も必要
- ・観光資源としてのPRが必要。川の活用の仕方はいいが、観光との繋げ方に工夫が必要。
- ・観光の観点から、PRが少ないように思う
- ・どこにPRするのか、ターゲットを絞った方がいい
- ・どこで、いつ、何が行われているか等の提案をしてはどうか
- ・モデルコースを作成してはどうか。モデルコースをつくれば想像しやすい
- ・川を使って移動できるという認知度を上げる必要がある
- ・案内サインや看板があれば認知度も上がる
- ・周遊船の時刻表もあればいい

- ・川の駅で降りて何をするのが分かりづらいところが現在の構想の難点
- ・船と水路だけでなく、行ったさきで何ができるかまで充実して欲しい
- ・下船した後の交通手段を多様化してほしい
- ・川の駅で下船した後のことも考えてほしい
- ・下船後、何があるのかを知っている人は少ないため分かりやすいツールがあればいいと思う
- ・水上だけでなく陸上の検討も必要（例えば街路樹など）

- ・下船したあとの行動範囲を広げるために、自転車との組み合わせは有効
- ・川プラス陸地側の活用方法も必要（例えば自転車で繋ぎ、サイクルと水上のネットワーク）
- ・自転車（レンタサイクル）で周遊できる方法があれば自由度が高まり、有効活用できると思う。
- ・自転車の利用も含めた構想にしてほしい
- ・自転車との組み合わせも面白い

- ・共有するビジョンが見えにくい。将来のビジョンを示すと参加しやすい。
- ・川を生かしたまちづくりはどこにも真似はできない
- ・有償の乗船者を増やすことが目的か、まちづくりとして社会貢献してくれるファンを増やすのか、戦略が変わってくる
- ・観光の観点から、四国全体の1つのコンテンツとして売り出す
- ・1つの場所だけでなく、ひょうたん島全体で盛り上がって行く必要がある

- ・今の風潮は、サステイナブルだから、ツアーを組むというより、社会貢献できるというほうが反応がいいかもしれない
 - ・持続していくためには、地元で根付きつつ、それを観光としても見てもらう方がいい
 - ・地元の方に愛されて、それを観光で見てもらうのがいい
 - ・市民に愛されるひょうたん島を売りにするために市民の利用者を増やす取組や工夫が必要
 - ・乗船してたら道から手をふる人もいて市民交流につながっている
-
- ・現在の周遊だけでなく、多様な運航のあり方も必要（例えば、動力を電力とした次世代操船システムや屋形船など）
 - ・周遊船だけでなく、生活の足やウーバーイーツ的に水上に食べ物を運んでもらう等、多様なクルーズの利用の仕方があれば面白い
-
- ・イベントによるまちづくりは一過性のもの
 - ・イベントは一時的なものだから、恒久的になにか楽しめる施設があればいい
 - ・その他の事業（新駅や再開発）との連携も必要
 - ・市のなかでも、観光や市民協働などとの連携も必要
 - ・まちづくりが主体の組織が必要だと強く感じている
 - ・定期観光船もいい
 - ・すばらしい取り組みなので継続してほしい
 - ・水上タクシーの取り組みも継続してほしい
 - ・ひょうたん島周辺の川を活用した水上タクシーやマルシェ等素敵だと感じる
 - ・夜の賑わいもあればいいと思う
 - ・船頭さんに費用を支払えるようにできればと思う
 - ・決済方法の多様化（ペイペイ、クーポン、現金等）の対応も必要
 - ・新町西地区の再開発エリアに、新たな川の駅があり、相乗効果を見込めるということで非常に期待している。新町西地区の川の駅はトイレや食事の面で利便性も良くなると思う。
 - ・ベイエリアまで範囲を広げたことは利便性が高くなったと感じる
 - ・公共交通としても、水上アトラクションとしても面白い
 - ・川を通して、歩いて行く、その楽しさを生み出したい
 - ・脱自動車には徳島市民の意識改革は必要
 - ・天候に左右されるが、デメリットをメリットに変えて伝えていくことが大切
 - ・安全面を確保することも大切、安心して乗船できること
 - ・記念的な使い方をすれば、リピーターにつながる
 - ・特別な日（ハレ）と日常（ケ）で分けた使い方を増やしていくのはどうか

川の駅の活動に協力できる内容

- ・ 情報発信
- ・ 「今日は何の日？じゃあこれ行こう」と言って見てもらえるようなカレンダーづくり
- ・ PRの協力
- ・ チラシの配布
- ・ 移動手段としての周遊船の認知度をあげる
- ・ 徳島への誘致活動、プロモーション活動

- ・ ツアーに組み込む
- ・ 川の駅周辺のコンテンツが充実すれば、ツアーに組んだり周知の協力が可能
- ・ 着地型コンテンツとして、ひょうたん島の取組を開発
- ・ 一定程度の実績ができれば、団体コンテンツとして何か組み合わせて活用もできる

- ・ ブロンプトンのコース設定・実施可能
- ・ 二次交通が脆弱だから、島巡りのような観点でポタリングと結びつける
- ・ 水上タクシーの継続

- ・ 今の取組(地域学習としての、低学年のクルーズ乗船やオリエンテーリング)を継続していく
- ・ 広域連携の窓口
- ・ 構想を学生に周知させる方法として、簡単なアンケートをしてはどうか
- ・ 新たな川の駅での活動
- ・ 法人格を得られて人が定着できれば、川の駅連絡会の事務局的役割を担うことも考慮したい(但し、費用面については官民で知恵を出し合う)
- ・ 組織や人材の紹介
- ・ 将来のプラン作成の手伝い
- ・ 人口を増やして以前のような賑わいを取り戻すことは難しいが、別の意味での幸せの形みたいなものを一緒に考えていくこと
- ・ 現在の中心部の駐車場や空き家などを整理整頓して、広場や建物の提案ができればと思う

その他（自由意見）

- ・関西万博で、持続可能性を見せる地域を売り出してはどうか（徳島は現場フィールドとして）
- ・テーマやカテゴリー連携を深めてはどうか
- ・観光より、市民の足としてこんなものがあると言う方が外からの人には共感を得られやすい
- ・徳島は川と暮らしが近いというのが魅力。川と一緒に暮らしてきた水の都の価値を守っていく活動のほうが共感度強い。川の水のもたらす恵みの持続可能性を市民参加で守っている地域。
- ・上陸税など回収してもいいのでは。水質保全基金、まちづくり基金とすると抵抗感が少ない。
- ・父母ヶ浜のように、活動している人たちの歴史・取り組みを表現していくのはどうか
- ・人が住んで自然環境負荷が少ない楽しみ方、ライフスタイルが実践できるまち、これが徳島の魅力としたPR。楽しみ方や過ごし方の提案などもう1つ別のコンセプトがいるように思う。
- ・中心となって進めていける人が必要
- ・小学校が取組をするには、なぜその取組をするのかという理由付けが必要
- ・それぞれの学校に応じた企画を提案してはどうか
- ・観光の観点から、徳島市内は弱い
- ・クルーズで行動範囲を広げるのも一つの案
- ・一人客向けに気軽な観光としてのクルーズもいい
- ・マルシェを毎週開催してもらえればいい
- ・国内で有名な雑誌に別冊作成してもらおう手法もある
- ・SDGsや自然環境として、水上交通として、方向性をきめて売り出していく必要があり、それに沿った活動内容や人とのすり合わせが必要
- ・共通認識をもって取り組んでいく
- ・人材も必要であるため、人材発掘にまちづくりセミナーを開催してはどうか
- ・バスの駐車場スペースもあればいい
- ・「徳島の歩き方」みたいな案内があればいい
- ・実務の中核になるような人が必要
- ・構想を実現していくには、優先順位をつけて、何年後にはこうするといった計画が必要
- ・地域住民、観光、行政が協働で徳島を良いまちにしていくビジョンが必要
- ・工程表をもって共有できれば分かりやすい
- ・徳島は鳴門のイメージが強いが、ひょうたん島周辺でも1日過ごせるアクティビティやモデルコースがあれば紹介しやすい
- ・若者が、もっと徳島を好きになるように、「なにもない」ではなく「なんでもあるよ」って、大人が子供に教えることで、まちに興味がわく
- ・あるものを壊すのではなく、一つ一つに物語やプロセスがあったことを思い出して、検証して、大事にしていければいいと思う
- ・一番町全部全面歩道の実証実験をしてみたい
- ・話題づくりでテレビで魚関係、川関係の人を招聘して、市内も楽しい！ってことを宣伝する
- ・徳島市内で何かできることでマイナスイメージではなく、ワクワクが生まれるようにしたい
- ・健康増進、SDGs、いろいろな切り口がある